

## 中山間地域における課題解決のあり方について

### ～買い物弱者を支える支援から～

五十嵐 来夢

本稿では、中山間地域において高齢者が抱える生活上の課題の一つとして「買い物のしづらさ」、いわゆる「買い物弱者」に焦点を当てて、筆者が参与観察した事例をもとにその支援のあり方を検討する。なお、本稿では「買い物弱者」への支援は、買い物に対するニーズを満たすだけでなく、その問題が生じている背景を含めた“地域課題”解決として捉え、中山間地域が抱える地域課題解決のあり方について考察する。

第1章では、中山間地域の実態を概観し、その環境から生じるリスクを整理している。その中でリスクの1つとして「移動困難」があることを明らかにし、「移動困難」から生じる「買い物弱者」の実態について述べている。

第2章では、「買い物弱者」を取り巻く現状について、買い物弱者の実態や取り組みの分類、取り組みの展開過程に着目し整理している。買い物弱者支援の展開過程については、経済産業省がまとめている「買い物弱者応援マニュアル Ver3.0」を参照して、事業の立ち上げ段階と継続の際のアプローチについて整理した。

第3章では、買い物弱者への支援の実際について、山形県酒田市日向地区において展開された地域住民と企業による実践への参与観察記録をもとに、その実践過程に即して参加主体の関わりや実践内容についてまとめている。その結果、実践の要点として「移動困難」支援に加えて「居場所づくり」を念頭に地域課題の一体的な解決を目指そうとしていること、企業の社会貢献意識、挑戦する地域特性の3点が抽出された。

第4章では、第3章でまとめた事例について、一般的な他事例との比較検討や、第2章で整理した買い物弱者支援の展開過程に基づいて分析し、酒田市日向地区における実践の特徴を図解している。その上で、中山間地域における地域課題解決のあり方として最も重要なこととして「地域住民」の主体的な関与を指摘している。